

社長メッセージ

# CSR経営を推進することで 「京阪ブランド」の 価値をさらに高め、 強靱な経営基盤を構築します

代表取締役社長

上田 成之助



事故に至らない「ヒヤリハット事例」についても、包み隠さず経営トップまで報告が上がるような仕組みができています。それらを分析すると、部門間の境界で発生するトラブルが一つの課題として浮かび上がってきました。事故を防ぐために部門間の取り決めがあっても、長い時間とともに曖昧になってしまうことがあります。そこで、部門間で曖昧になっている取り決めに明確にするとともに、その取り決めがされた背景も理解するように努めています。背景を理解できれば、行動の大切さも理解できますし、応用もできます。

こうした当社独自の安全への取り組みは、外部の識者からも高い評価をいただいていますし、お客さまからも「事故のない京阪」という評価をいただける結果となっています。

## グループ一体となってCSR経営を推進

鉄道はほかの交通機関に比べて事業そのものの環境負荷が低く、その利用促進は社会全体のCO2削減につながります。当社では中之島線の開業にあわせて48両の新車両を導入しました。新車両は従来車両に比べて約30%の省エネ効果があり、地球環境保護に一層貢献することができます。

公共交通の利用促進では、京都へ来訪されるお客さまへの「パーク&ライド」の積極的なPRや、駐輪場の誘致や整備などによる「サイクル&ライド」を推進しています。環境問題への関

心の高まりを追い風として、環境負荷の低い鉄道利用をより一層促進するとともに、京阪グループをあげて環境活動をさらに推進していきます。

CSR経営のもう一つの柱となる、お客さま満足のための取り組みでは、「鉄道CS推進会議」を発足させ「お客さまセンター」に寄せられた意見を協議し、具体的な改善策をいくつも実現しています。また、鉄道事業以外では京阪東ロースタウンでの「共育(ともいく)」への取り組みや、京阪電車沿線で介護サービス事業を行っている京阪ライフサポートの事業などは、沿線や地域の皆さまから大きな支持をいただき、まさに“選ばれる京阪”を実現しています。

今後も、京阪グループの各事業が京阪ブランドの価値向上を果たし、総合力としての強みを発揮できるよう、グループ一体となったCSR経営を推進していきます。それにより暮らしやレジャー、ビジネスなど、さまざまな場面で“選ばれる京阪”を実現していきます。